

- オイドの使い方は？EBM 呼吸器疾患の治療（永井厚志、吉澤靖之、大田健、江口研二編集）、中外医学社 p405-408、2007
16. 下山直人：医療用麻薬（オピオイド鎮痛薬）の種類と特徴、インフォームドコンセントのための図説シリーズ がん性疼痛（下山直人編）、医薬ジャーナル社 p34-39、2007
  17. 高橋秀徳、下山直人：Ⅱ．緩和ケアにおけるコンサルテーション活動の専門性 2．緩和ケアチームで活躍する医師の役割と実際－1）緩和ケア担当医の立場から、ホスピス緩和ケア白書 2007（（財）日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団「ホスピス緩和ケア白書」編集委員会編集）、（財）日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 p24-27、2007
  18. 下山直人：がん患者の苦痛に対する鍼灸の効果、統合医療 基礎と臨床（日本統合医療学会、渥美和彦編集）、株式会社ゾディアック p66-73、2007
  19. 下山恵美、下山直人、他：経口オピオイド鎮痛薬の重要性とオキシコドンが果たす臨床的役割、がん患者と対症療法 18(2)、6-10、2007
  20. 下山直人：科学的知見に基づくオピオイドに関する知識の再確認、がん患者と対症療法 18:85-87、2007
  21. 中山理加、下山直人、他：疼痛コントロール、内科 100：1037-1045、2007
  22. 片山博文、下山直人、他：腎障害を伴うがん患者の痛み治療におけるオキシコドンの有用性—モルヒネからの切り替え事例を経験して、がん患者と対症療法 18:40-42、2007
  23. 下山直人：緩和治療・痛みのケア、別冊暮らしの手帖 がん安心読本：76-81、2007
  24. 下山直人：緩和ケア療法における鎮痛薬の使い方、日本耳鼻咽喉科学会専門医通信 92：12-13、2007
  25. 中山理加、下山直人、他：癌性疼痛、臨床と研究 84:57-61、2007
  26. 下山直人：緩和医療はここまで進んだ、東京女子医科大学雑誌 77:182-186、2007
  27. 服部政治、下山直人、他：オピオイドローテーション、緩和医療学 9:79-85、2007
  28. 中山理加、下山直人、他：QOL 維持のための疼痛管理、からだの科学 253:178-182、2007
  29. 木俣有美子、下山直人、他：肺がんの合併症対策1）がん性疼痛の管理、呼吸器科、11:156-163、2007
  30. 門田和気、下山直人、他：新しく導入される可能性の高いオピオイドとその意義、がん看護、12:180-183、2007
  31. 中山理加、下山直人、他：鎮痛補助薬、日本臨床、65:57-62、2007
  32. 森田達也：終末期がんの場合 1. 輸液. がん医療におけるコミュニケーション・スキル 医学書院 p58-63、2007
  33. 森田達也：終末期がんの場合 2. 鎮静. がん医療におけるコミュニケーション・スキル 医学書院 p64-69、2007
  34. 森田達也、他：緩和ケアチームの活動—聖隷三方原病院の場合—、日本臨床 65:128-137、2007
  35. 森田達也：緩和ケアにおけるクリニカルパス. 一序—緩和医療学 9:1、2007
  36. 森田達也、他：STAS-Jを用いた苦痛のスクリーニングシステム. 緩和医療学 9:159-162、2007
  37. 森田達也、他：緩和ケアにおけるコンサルテーション活動の専門性. 緩和ケアチームの活動の現況と展望—聖隷三方原病院の場合. ホスピス緩和ケア白書 2007、p17-23、2007
  38. 安達勇、森田達也：終末期がん患者に対する輸液ガイドライン：概念的枠組み. 緩和ケア 17:186-188、2007
  39. 山田理恵、森田達也、他：末梢静脈からのガイドワイヤーを用いた中心静脈カテーテルの挿入. 緩和ケア 17:223-224、2007
  40. 明智龍男、森田達也、他：看取りの症状緩和パス：せん妄. 緩和医療学 9:245-251、2007
  41. 八代英子、森田達也、他：看取りの症状緩和パス：嘔気・嘔吐. 緩和医療学 9:259-264、2007
  42. 森田達也：終末期の輸液管理. 消化器外科 Nursing 12:965-974、2007
  43. 森田達也：緩和ケアへの紹介のタイミング：概念から実行のとき. 腫瘍内科 1:364-371、2007
  44. 森田達也：終末期がんの場合 1. 輸液. がん医療におけるコミュニケーション・スキル 医学書院 58-63、2007
  45. 森田達也：終末期がんの場合 2. 鎮静. がん医療におけるコミュニケーション・ス

- キル 医学書院 64-69, 2007
46. 森田達也: 緩和治療とは何か. 医学芸術社. がん化学療法と患者ケア 改訂第 2 版 232-234, 2007
  47. 明智龍男: 難しいケースの場合: 「死にたい」への対応. がん医療におけるコミュニケーション・スキル 悪い知らせをどう伝えるか. 医学書院 p103-107, 2007
  48. 明智龍男: 精神的ケア-おもな精神症状の診断と治療. 系統看護学講座別巻 10 緩和ケア. 医学書院 189-211, 2007
  49. 明智龍男: がん患者の精神的問題. 今日の治療指針 2007 年版. 医学書院 p714-715, 2007
  50. 明智龍男: 悪性腫瘍(がん)診療を取り巻く環境を知る: 精神的サポート内科 100:1046-1052, 2007
  51. 明智龍男: 「緩和ケアチーム」-精神科医に期待すること, 精神科医ができること: 精神科医の立場から. 精神医学 49: 907-913, 2007
  52. 明智龍男: がん患者と自殺. 腫瘍内科 1: 333-339, 2007
  53. 佐川竜一, 明智龍男 他: せん妄の向精神薬による対症療法: 精神科治療学 22: 885-891, 2007
  54. 明智龍男: がん治療時に伴う精神症状に対する支持療法. 呼吸器科 11: 183-188, 2007
  55. 明智龍男: がん患者の精神症状に対する薬物療法の実践. 日本臨牀 65: 115-120, 2007
  56. 小林俊三, 明智龍男 他: がん治療とインフォームドコンセント. 現代医学 55: 287-315, 2007
  57. 岡村 仁: 更年期の精神ケアとホルモン補充療法. 乳癌リスクからみたホルモン補充療法の治療指針. 金原出版 p62-66, 2007
  58. 藤野成美, 岡村 仁: 精神障害者の家族介護者における介護の肯定的認識とその関連要因. 臨床精神医学 36: 781-788, 2007
  59. 藤野成美, 脇崎裕子, 岡村 仁: 精神科における長期入院患者の苦悩. 日本看護研究学会雑誌 30: 87-95, 2007
  60. 大谷道明, 岡村 仁: 高齢者の運動療法の効果と限界: 高齢者の認知機能と運動療法. PT ジャーナル 41: 47-52, 2007
  61. 大谷道明, 岡村 仁, 和久美恵, 大橋恭彦, 真名 将: 慢性期脳卒中者の認知症に対するアプローチ. PT ジャーナル 41: 269-275, 2007
  62. 岡村 仁: がん患者のリハビリテーション. 腫瘍内科 1: 420-426, 2007
  63. 岡村 仁: 悪性腫瘍の遠隔効果 “paraneoplastic syndrome” に関する最近の知見. 総合病院精神医学 19: 348-352, 2007
  64. 鶴飼聡, 小川朝生, 他: 体性感覚野への rTMS による HF0s の変化. 臨床脳波. 47: 83-89, 2007
  65. 明智龍男, 内富庸介: がん患者のうつと自殺. 学術の動向 13: 44-8, 2008
  66. 稲垣正俊, 内富庸介: がん患者の倦怠感(がんに関連する倦怠感). 精神医学 50: 587-95, 2008
  67. 内富庸介, 藤森麻衣子: がん患者の精神症状マネジメントとコミュニケーションスキル 緩和ケアチームにおける精神医学の技術の効用 精神腫瘍学の臨床・教育経験から. 臨床精神薬理 11: 768-76, 2008
  68. 内富庸介: がん医療における家族への配慮. ナース専科 29: 92-5, 2008
  69. 内富庸介: サイコオンコロジー総論. 日本病院薬剤師会雑誌 44: 1748-50, 2008
  70. 内富庸介: がん患者の心の痛み: Psychooncology の臨床実践. 慢性疼痛 27: 17-21, 2008
  71. 内富庸介: がん患者さんが陥りやすい抑うつ状態にどうかかわるか. ナース専科 28: 96-9, 2008
  72. 内富庸介: がんに対する心の反応を理解しよう. ナース専科 28: 100-3, 2008
  73. 内富庸介: がん医療における心のケアとコミュニケーション. 医薬の門 48: 2(226) -8 (32). 2008
  74. 内富庸介: Psycho-Oncology の臨床応用について. Pain Clinic 29: 1004-5, 2008
  75. 小川朝生, 内富庸介: がん終末期の精神症状とその対策-サイコオンコロジーの役割-. 外科治療 99: 566-73, 2008
  76. 小川朝生, 内富庸介: 膀胱癌と精神腫瘍学. Pharma Medica 26: 67-70, 2008
  77. 小川朝生, 内富庸介: チーム医療とは基本的な概念の整理. 腫瘍内科 2: 273-9, 2008
  78. 白井由紀, 内富庸介, 他: コミュニケーション・スキル・トレーニング (CST) プロジェクト. 緩和医療学 10: 263-70, 2008

79. 藤森麻衣子, 内富庸介: 癌患者とのコミュニケーション. コンセンサス癌治療 7: 44-7, 2008
80. 藤森麻衣子, 内富庸介: がん医療におけるコミュニケーション・スキル: SHAREとは. 医薬の門 48: 9 (233)-13 (7), 2008
81. 藤森麻衣子, 内富庸介: がん医療における心理的支援の可能性. こころの科学 140: 2-9, 2008
82. 松岡豊, 内富庸介: 扁桃体の臨床 海馬・扁桃体の体積計測法とサイコオンコロジー. Clinical Neuroscience 26: 427-30, 2008
83. 山田祐, 内富庸介, 他: サイコオンコロジーとは. コンセンサス癌治療 7: 4-7, 2008
84. 下山恵美, 下山直人, 他: 鎮痛補助薬、臨床緩和医療薬学 (日本緩和医療薬学会編)、真興交済株式会社医書出版部、p78-92, 2008
85. 下山恵美, 下山直人: 疼痛管理、造血幹細胞移植の基礎と臨床(上巻) (神田善伸編)、医薬ジャーナル社、p 299-302, 2008
86. 大上俊彦, 下山直人, 他: 膵がんの疼痛マネジメント、膵がん標準化学療法の実際(奥坂拓志編)、金原出版、p 59-61, 2008
87. 高橋秀徳, 下山直人, 他: 国立がんセンター中央病院、緩和ケアチームの立ち上げとマネジメント(後明邦男編)、南山堂、p130-133, 2008
88. 下山直人, 他: 疼痛のメカニズム、癌緩和ケア(東原正明編著)、振興医学出版社、p 6-9, 2008
89. 下山直人: 疼痛緩和のガイドライン、腫瘍内科 2(5): 399-405, 2008
90. 下山直人, 他: 難治性疼痛の治療、麻酔、57 増刊、S170-S179, 2008
91. 笠井慎也, 下山直人, 他: がん性疼痛患者におけるオピオイドの作用、副作用に関する遺伝子解析、ペインクリニック 29: s439-s449, 2008
92. 高橋秀徳, 下山直人, 他: 癌の痛みを上手にとるには、外科治療 99(6)580-590, 2008
93. 下山直人, 他: がん性疼痛患者へのチームによる全人的緩和医療、慢性疼痛 27(1): 31-36, 2008
94. 下山直人, 他: 緩和医療の最前線、頭頸部癌 34(3): 300-304, 2008
95. 下山恵美, 下山直人, 他: がんと統合医療—緩和医療、モダンフィジシャン 28(11): 1605-1607, 2008
96. 下山直人: 疼痛緩和のガイドライン、腫瘍内科 2(5): 399-405, 2008
97. 下山直人, 他: がん性疼痛を取り除くための薬剤の知識、Expert Nurse 24(10): 33-39, 2008
98. 下山直人, 他: 研究プロジェクト②がん疼痛に対する代替療法・支持療法、緩和医療学 10(3): 11-16, 2008
99. 下山恵美, 下山直人: 緩和ケアチームの現状と課題、総合臨床 57(6): 1807-1808, 2008
100. 下山直人: 緩和医療の現状と今後の展望、東京都医師会雑誌 61(4): 75-79, 2008
101. 下山直人: 鎮痛補助薬の現状と今後の展望 序、緩和医療学 10(2): 1-2, 2008
102. 下山恵美, 下山直人: 鎮痛補助薬総論(その意義)、緩和医療学 10(2): 3-8, 2008
103. 藤本亘史, 森田達也: 疼痛マネジメントをするための系統的・継続的評価. 月間ナース 28: 90-94, 2008
104. 森田達也, (編), 他: 緩和ケアチームの立ち上げ方・進め方. 青海社. 東京. 2008
105. 森田達也: 緩和ケアの現在と将来—Introduction for psychiatrists—. 臨床精神薬理 11: 777-786, 2008
106. 山岸暁美, 森田達也: 緩和ケア普及のための地域プロジェクターがん対策のための戦略研究「OPTIM プロジェクト」. 緩和ケア 18: 248-250, 2008
107. 森田達也: 終末期癌患者における輸液治療—日本緩和医療学会ガイドラインの概要—. 日本医事新報 4390: 68-74, 2008
108. 社団法人日本医師会(監), 森田達也(編), 他: がん性疼痛治療のエッセンス. 青海社. 東京. 2008
109. 社団法人日本医師会(監), 森田達也(編), 他: がん緩和ケアガイドブック 2008年版. 青海社. 東京. 2008
110. 山岸暁美, 森田達也, 他: 研究プロジェクト①地域介入研究(戦略研究). 緩和医療学 10: 215-222, 2008
111. 河正子, 森田達也: 研究プロジェクト⑧スピリチュアルケア. 緩和医療学 10(3): 256-262, 2008
112. 安藤満代, 森田達也: 終末期がん患者へのライフレビュー —その現状と展望—. 看護技術 54: 65-69, 2008
113. 安藤満代, 森田達也: 終末期がん患者へ

- のスピリチュアルケアとしての短期回想法の実践. 看護技術 54:69-73, 2008
114. 森田達也: 医療連携と緩和医療; OPTIMプロジェクトによる地域介入研究の紹介. コンセンサス癌治療 7:123-125, 2008
  115. 森田達也: 緩和医療(終末期医療、在宅ケア). 中川和彦(編集), 勝俣範之, 西尾和人, 畠清彦, 朴成和(共同編集) NAVIGATOR Cancer Treatment Navigator 278-279, 2008
  116. 森田達也, 他: 臨床と研究に役立つ緩和ケアのアセスメント・ツール II. 身体症状 4. 緩和ケアニードのスクリーニングツール. 緩和ケア 18(Suppl):15-19, 2008
  117. 森田達也: 臨床と研究に役立つ緩和ケアのアセスメント・ツール IX. 患者・家族における臨床ツール 4. 症状評価のためのツール. 緩和ケア 18(Suppl):129-131, 2008
  118. 藤本亘史, 森田達也: 臨床と研究に役立つ緩和ケアのアセスメント・ツール X. その他の評価とツール 5. 緩和ケアチーム初期評価表. 緩和ケア 18(Suppl):157-160, 2008
  119. 明智龍男: 癌患者にみられる代表的な精神症状とその対策: コンセンサス癌治療 7, 14-18, 2008
  120. 明智龍男: 研究プロジェクト-精神心理的介入のエビデンス: 緩和医療学 10, 250-255, 2008
  121. 明智龍男: がん患者はなぜ死を望むのか: 分子精神医学 8, 272-274, 2008
  122. 明智龍男: サイコオンコロジーにおけるEBM: 精神科 13, 99-104, 2008
  123. 明智龍男: 精神科医のがんチーム医療への参加: 腫瘍内科 2, 322-328, 2008
  124. 明智龍男: がん患者の自殺企図とその対策: 血液・腫瘍科 57, 575-580, 2008
  125. 山下真裕子, 岡村 仁: うつ病の再発予防に関するセルフエフィカシー尺度の開発と信頼性・妥当性の検討. 臨床精神医学 37: 1045-1052, 2008
  126. 花岡秀明, 岡村 仁, 他: 在宅高齢者に対する転倒・認知症予防プログラムの予備的研究. 作業療法ジャーナル 42: 1254-1260, 2008
  127. 横井輝夫, 岡村 仁: 認知症者のBPSDの解釈モデルについての検討. 老年精神医学雑誌 19: 997-1008, 2008
  128. 小野ミツ, 岡村 仁, 他: 介護者が高齢者にとる位置と向きへの分析. 日本看護科学会誌 28: 46-54, 2008
  129. 岸本光代, 岡村 仁: 入学時における医療系学生のSense of Coherence (SOC)に関連する要因の検討. 保健医療社会学論集 19: 82-93, 2008
  130. 岡村 仁: サイコオンコロジーの理解と実践を目指して. コンセンサス癌治療 7: 2-3, 2008
  131. 岡村 仁: がんチーム医療とリハビリテーション. 腫瘍内科 2: 343-347, 2008
  132. 小川朝生, 内富庸介: サイコオンコロジーの役割 日本臨床増刊 67 Suppl 1: 521-527
  133. 小川朝生, せん妄, うつ病に対する治療薬の使用方法の実際 日本病院薬剤師会雑誌 44: 1754-1756, 2008
  134. 小川朝生: 化学療法による認知機能障害をどのように評価すべきか検討した論文 Mebio Oncology 5:130-133, 2008
  135. 小川朝生: 緩和ケアの食事療法 食事からこころのケアへ 臨床で役立つ精神腫瘍学の知識 New Diet Therapy 24:123, 2008
  136. 鶴飼聡, 小川朝生, 篠崎和弘, 痛みのTMS治療 臨床精神医学 37:59-65, 2008
  137. 大西秀樹: がん医療における精神腫瘍学的な問題とその対応について. 精神神経薬理 11: 761-767, 2008
  138. 大西秀樹, 他: グリーフケア. 緩和医療学 10. 196-197, 2008
  139. 大西秀樹, 他: がん患者と家族への心のケア. 第6回 遺族ケア 家族ケア 6. 16-19, 2008
  140. 大西秀樹, 他: 遺族ケアの実際. 総合病院精神医学 20: 149-155, 2008
  141. 大西秀樹, 他: 精神腫瘍外来. 精神科治療学 23: 1097-1102, 2008
  142. 大西秀樹, 他: 緩和医療における家族ケアの基本. 緩和医療学 10: 347-351, 2008
  143. 大西秀樹, 他: がん患者の遺族外来について. 心と社会 39: 52-60, 2008
  144. 白井由紀, 内富庸介, 他: 症状緩和8コミュニケーション. 治療学 43: 397-403, 2009
  145. 内富庸介, 藤森麻衣子: SHARE-癌医療におけるコミュニケーション技術. Trends in Hematological Malignancies 1: 34-38, 2009
  146. 内富庸介: がん医療における家族への配

- 慮. ナース専科 29: 92-95, 2009
147. 内富庸介: コミュニケーション. がん緩和医療 43: 49-55, 2009
  148. 内富庸介: サイコオンコロジー総論. 日本精神科病院協会雑誌 28: 6-12, 2009
  149. 藤森麻衣子、内富庸介: がん医療におけるコミュニケーション. 日本精神科病院協会雑誌 28: 41-46, 2009
  150. 清水研、内富庸介: サイコオンコロジー. MedicamentNews 1997: 17-18, 2009
  151. 小川朝生、内富庸介: サイコオンコロジーの役割. 日本臨床 67: 521-527, 2009
  152. 小川朝生、内富庸介: 緩和ケアチームが機能するための課題. 癌の臨床 55: 441-446, 2009
  153. 小川朝生、内富庸介: 高齢者の精神腫瘍学. 腫瘍内科 3: 505-511, 2009
  154. 小川朝生、内富庸介: 精神腫瘍学クイックリファレンスの作成について. 緩和医療学 11: 20-25, 2009
  155. 小川朝生、内富庸介, 他: がんセンターにおける緩和ケア—緩和ケアにおける抑うつへのアプローチを中心に—. 心療内科 13: 193-200, 2009
  156. 山田祐, 内富庸介, 他: コミュニケーション・スキル(SHARE). CANCER BOARD 乳癌 2: 67-70, 2009
  157. 山田祐, 内富庸介, 他: 医師のコミュニケーション技術の向上を図るためのコミュニケーション技術研修会について. 緩和医療学 11: 26-30, 2009
  158. 山田祐, 内富庸介, 他: 急性白血病患者に対するコミュニケーション・スキル. Trends in Hematological Malignancies 1: 36-40, 2009
  159. 森田達也: 緩和支援治療の量と質の充実と普及をめざす先進的な取り組み. 漢方医学 33:295-298, 2009
  160. 森田達也: スピリチュアルケアガイドの作成プロジェクトの背景. 緩和ケア 19:16-21, 2009
  161. 草島悦子, 森田達也, 他: 緩和ケアとスピリチュアルケア. 緩和ケア 19:43-48, 2009
  162. 前堀直美, 森田達也, 他: 薬剤師からみた地域連携 保険薬局の抱える現状と課題. 緩和ケア 19:130-136, 2009
  163. 森田達也, 他: がん性疼痛治療におけるフェンタニル貼付剤の意義と今後の展望. Pharma Medica 27:61-68, 2009
  164. 森田達也: 症状緩和 終末期における輸液治療. 治療学 43:377-382, 2009
  165. 森田達也, 他: すべての病状を通じての緩和ケアチームの活動例. 治療学 43:459-464, 2009
  166. 森田達也: 維持輸液、栄養輸液、経腸栄養 終末期がん患者に対する輸液治療. 総合臨床 58(増刊):1110-1118, 2009
  167. 森田達也: 緩和ケアチームと麻酔科のコラボレーション 緩和ケア医の立場から. LiSA 16(別冊'09):40-49, 2009
  168. 森田達也: 終末期がん患者に対する輸液治療. 外科治療 101:149-158, 2009
  169. 森田達也: 30年間のホスピスの歴史が緩和ケアチームの基盤となっていた. Cross Cancer Research 1:12-13, 2009
  170. 森田達也: 第3部がん化学療法中に施行する栄養管理. 5. 終末期がん患者に対する輸液治療. がん患者の栄養管理 がん化学療法チームハンドブック. 南山堂 262-271, 2009
  171. 森田達也: 緩和ケアチームの活動とリハビリテーション. MB Med Reha 111:45-50, 2009
  172. 天野功二, 森田達也: 第II章消化器癌化学療法の実際. 消化器癌化学療法施行時の栄養管理と消化器癌患者に対する緩和医療. 消化器癌患者に対する緩和医療. 久保田哲朗, 大村健二 編. 消化器癌化学療法 改訂2版. 南山堂. 359-374, 2009
  173. 鄭陽, 森田達也, 他: 地域における講義とグループディスカッションを複合した多職種セミナーの有用性. ペインクリニック 30:1553-1563, 2009
  174. 明智龍男: がん患者の抑うつと自殺. 日本精神科病院協会雑誌 2009; 28: 13-16
  175. 明智龍男: 非専門家がうつ病患者を見つけたとき、専門家につなげる一言. Depression Frontier 2009; 7: 77-81
  176. 明智龍男: がん患者に対する精神医学的な介入に関する研究について. 緩和医療学 2009; 11: 73-77
  177. 明智龍男: がん患者と家族の心のケア (サイコオンコロジー). 治療 2009; 91:2419-2423
  178. 明智龍男: 癌患者の精神症状緩和-サイコオンコロジー. 臨床泌尿器科 2009; 63: 513-519
  179. 明智龍男: がん医療における適応障害と精神療法緩和ケア 2009; 19: 205-209

180. 明智龍男 : がん患者の精神症状. 治療学 2009; 43: 44-48
181. 明智龍男 : がん患者に対する精神療法. 精神神経学雑誌 2009; 111: 68-72
182. 三木恵美, 岡村 仁, 他: 末期がん患者に対する作業療法の効果～作業療法士の語りの質的内容分析～. 作業療法 28: 48-59, 2009
183. 藤野成美, 岡村 仁, 他: 統合失調症患者の家族介護者における介護経験に伴う苦悩. 日本看護研究学会雑誌 32: 35-43, 2009
184. 花岡秀明, 岡村 仁, 他: 中高年者における肥満と健康関連 QOL の検討ー男性と女性の相違に関する一考察. 総合リハ 37: 1167-1173, 2009
185. 安東由佳子, 岡村 仁, 他: 神経難病患者をケアする看護師における仕事ストレスー尺度の作成ー質問項目選定のための検討ー. 広島大学保健学ジャーナル 8: 1-6, 2009
186. 安東由佳子, 岡村 仁, 他: 神経難病患者をケアする看護師におけるバーンアウト因果モデルの作成と検証. 日本看護科学会誌 29: 3-12, 2009
187. 岡村 仁: うつ病の理解とケアーうつ病に対する精神療法ー. 緩和ケア 19: 225-227, 2009
188. 繁本 梢, 岡村 仁: 高齢がん患者とリハビリテーション. 腫瘍内科 3: 546-550, 2009
189. 岡村 仁: 病理医が患者さんと会うときに心得ておきたい基礎知識 A. がんと診断を患者に知らせるとき. 病理と臨床 27: 675-677, 2009
190. 岡村 仁: がん患者のリハビリテーション. 日本精神科病院協会雑誌 28: 31-35, 2009
191. 小川朝生 : 薬剤性精神症状を見極める. 看護学雑誌 73: 10-19, 2009
192. 小川朝生 : がん患者のせん妄・認知症. 日本精神科病院協会雑誌 28: 24-30, 2009
193. 小川朝生 : 不安に使用される BZP, SSRIs 以外の薬物. : 最新精神医学 14: 551-555, 2009
194. 小川朝生, 緩和ケアにおけるうつへのアプローチ 現状と課題. Depression Frontier 7:55-60, 2009
195. 大西秀樹 サイコオンコロジーの基本的知識 診断と治療 11: 54-59, 2009
196. 大西秀樹, 石田真弓, 野村忍 患者家族へのケアーどう対応してゆくか 臨床腫瘍プラクティス 5: 174-177, 2009
- 学会発表 (国際学会)
1. Yoshikawa E, Akechi T, Uchitomi Y, et al: Prefrontal Cortex and Amygdala Volume in First Minor or Major Depressive Episode After Cancer Diagnosis. WPA International Congress 2007. 2007.11, Melbourne
  2. Uchitomi Y: Development of Psycho-Oncology. 心理腫瘍学検討会. 2007.11, 台湾
  3. Uchitomi Y: Truth-telling Practice in Japan. 心理腫瘍学検討会. 2007.11, 台湾
  4. Uchitomi Y: Assessment of Depression in Cancer Patients. 心理腫瘍学検討会. 2007.11, 台湾
  5. Uchitomi Y: Management of Depression in Cancer Patients. 心理腫瘍学検討会. 2007.11, 台湾
  6. Uchitomi Y: The Development of Psycho-Oncology in Japan: The 46th Annual Meeting of Taiwanese Society of Psychiatry. 2007.11, 台湾
  7. Uchitomi Y: Psycho-Oncology Development in Asia: 9th World Congress of Psycho-Oncology. 2007.10, London
  8. Fujimori M, Akechi T, Morita T, Uchitomi Y, et al: Preferences of cancer patients regarding the disclosure of bad news9<sup>th</sup> World Congress of Psycho-oncology. 2007.9, London
  9. Okuyama T, Akechi T, et al: Cancer patients' reluctance to emotional disclosure to their physicians. 9<sup>th</sup> World Congress of Psycho-oncology. 2007.9, London
  10. Sagawa R, Akechi T, et al: Identifiable aetiologies of delirium in cancer patients 9<sup>th</sup> World Congress of Psycho-oncology. 2007.9, London
  11. Yoshikawa E, Akechi T, Uchitomi Y, et al: Smaller regional volumes of brain gray and white matter demonstrated in breast cancer survivors exposed to

- adjuvant chemotherapy . 9<sup>th</sup> World Congress of Psycho-oncology. 2007.9, London
12. Akazawa T, Morita T, Akechi T, et al: Clinical factors associated with psycho-existential suffering in Japanese terminally ill cancer patients . 9<sup>th</sup> World Congress of Psycho-oncology. 2007.9, London
  13. Akechi T, Morita T, et al: Psychotherapy for depression among advanced cancer patients: a systematic review 9<sup>th</sup> World Congress of Psycho-oncology. 2007.9, London
  14. Akechi T, et al: Psycho- therapy for depression among advanced cancer patients: a systematic review. 54<sup>th</sup> Annual Meeting of the Academy of Psychosomatic Medicine. 2007.11, Florida
  15. Okuyama T, Akechi T, et al: Oncologists may have difficulty in assessing their patients' physical and psychological symptoms 54<sup>th</sup> Annual Meeting of the Academy of Psychosomatic Medicine. 2007.11, Florida
  16. Uchitomi Y, Grassi L. Development of Psycho-Oncology Network:the experience of the IPOS and the Southern European Research Network on Distress Screening among Cancer Patients. in The 1st Meeting of the East Asia Psycho-Oncology Society(EAPOS). 2008. Tokyo.
  17. Shimoyama M, Shimoyama N, et al., Endocannabinoids are involved in the pain modulation by orexin, 12th world Congress on Pain, Glasgow, Aug.20th, 2008
  18. Akechi T, et al : Delirium traning program for nuses. 10th World Congress of Psycho-Oncology . June 9-13, 2008 (Madrid)
  19. Okuyama T, Akechi T, et al: Reliability and validity of the Short-Form Supportive Care Needs Survey- Japanese version (SCNS-SF34-J) . 10th World Congress of Psycho-Oncology. June 9-13, 2008 (Madrid)
  20. Inagaki M, Akechi T, Uchitomi Y, et al:Plasma interleukin-6 and fatigue in terminally ill cancer patients. 10th World Congress of Psycho-Oncology. June 9-13, 2008 (Madrid)
  21. Shimizu K, Akechi T, Uchitomi Y, et al :First panic attack episodes in head and neck cancer patients who have undergone radical neck surgery. 10th World Congress of Psycho-Oncology . June 9-13, 2008 (Madrid)
  22. Kobayakawa M, Akechi T, Uchitomi Y, et al : Serum brain derived neurotrophic factor and antidepressant-naïve major depression after lung cancer diagnosis. 10th World Congress of Psycho-Oncology . June 9-13, 2008 (Madrid)
  23. Akechi T, et al : Delirium traning program for nuses. 55th Annual Meeting of the Academy of Psychosomatic Medicine. Nov 19-23, 2008 (Florida)
  24. Okuyama T, Akechi T, et al :Reliability and validity of the Short-Form Supportive Care Needs Survey- Japanese version (SCNS-SF34-J) . 55th Annual Meeting of the Academy of Psychosomatic Medicine. Nov 19-23, 2008 (Florida)
  25. Akechi T, Uchitomi Y, et al: Symptom indicator of severity of depression in cancer patients: a comparison of the DSM-IV criteria with alternative diagnostic criteria. In 11th World Congress of Psycho-Oncology: 2009.6 : Vienna
  26. Akechi T, Uchitomi Y, et al : Symptom indicator of severity of depression in cancer patients: a comparison of the DSM-IV criteria with alternative diagnostic criteria. In 56th Psychosomatic Medicine: 2009.11 : Nov Las Vegas
  27. Funaki Y, Okamura H, et al: Effect of a speed feedback therapy system on the frontal cerebral blood flow of elderly persons. A near-infrared spectroscopy (NIRS) study. 6<sup>th</sup> International Congress on Vascular Dementia. Poster Session. 2009. 11, Barcelona, Spain
  28. Hirasawa R, Okamura H, et al:

- Relationship between cognitive functions and balance performance in infirm elderly people. Poster Session. 2009. 11, Barcelona, Spain
29. Kaneko F, Okamura H, et al: Relationship between the response patterns of oxyhemoglobin concentration in the frontal cerebral area by a speed feedback therapy system and cognitive function. Poster Session. 2009. 11, Barcelona, Spain
30. Ishida M, Onishi H, Wada M, Nishida, Wada M・Nomura S. Bereavement Dream? - Case of a Japanese women suffering from unpleasant dream. International Psycho-Oncology Society. 2009. 6 , Vienna, Austria
31. Onishi H, Ishida M, Wada M, Nishida, Wada M・Nomura S. Psychiatric disorders of the bereaved who lost family members due to cancer: Experiences of outpatient services for bereaved families in a cancer center hospital in Japan. International Psycho-Oncology Society. 2009. 6, Vienna, Austria
- 学会発表 (国内学会)
1. 内富庸介、藤森麻衣子、平井啓: がんと心: 患者の意向に副ったケアの提供を目指して. 第 14 回多文化間精神医学会. 2007. 2, 東京
2. 浅井真理子、森田達也、内富庸介、他: がん医療に関わる医師のバーンアウトとコミュニケーションスキルトレーニング. シンポジウム「外傷的出来事に職業的に関わる人々のストレスケア」. 日本トラウマティック・ストレス学会. 2007. 3, 東京
3. 秋月伸哉、明智龍男、内富庸介、下山直人、森田達也、他: 緩和ケアチームのための講習会プログラム. 国立がんセンター東病院支持療法・緩和ケアチーム厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「地域に根ざしたがん医療システムの展開に関する研究」班. 2007. 3, 柏市
4. 内富庸介、藤森麻衣子: サイコオンコロジーの臨床技術: 悪い知らせの後の抑うつとがん医療者のコミュニケーション. 第 103 回日本精神神経学総会. 2007. 5, 高知,
5. 内富庸介、稲垣正俊、藤森麻衣子: がんと心、そして脳. 第 34 回日本脳科学会. 2007. 6, 島根
6. 内富庸介: がん患者の抑うつ対策. 第 4 回日本うつ病学会総会. 2007. 6, 札幌
7. 内富庸介: がん患者の心の反応とその変調への対応. 第 4 回日本うつ病学会総会. 2007. 6, 札幌
8. 新城拓也、森田達也、明智龍男、内富庸介、他: 終末期せん妄に関する、家族の経験についての質問紙調査. 第 12 回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
9. 内富庸介: がん患者の心の反応とその変調への対応～サイコオンコロジーの臨床実践～. 第 7 回日本認知療法学会. 2007. 10, 東京
10. 内富庸介、藤森麻衣子: がん治療におけるコミュニケーションスキルトレーニング: ロールプレイを用いたサイコオンコロジーの臨床応用. 第 7 回日本認知療法学会. 2007. 10, 東京
11. 藤森麻衣子、明智龍男、森田達也、内富庸介、他: 患者が望む悪い知らせのコミュニケーションその 1 国立がんセンター東病院外来調査. 第 45 回日本癌治療学会総会. 2007. 10, 京都
12. 藤森麻衣子、明智龍男、内富庸介、他: 患者が望む悪い知らせのコミュニケーションその 2 日米がんセンター比較. 第 45 回日本癌治療学会総会. 2007. 10, 京都
13. 下山直人: シンポジウム『関連領域で活躍している麻酔医』「麻酔科医にとっての緩和医療の意義」: 日本麻酔科学会東京・関東甲信越支部合同学術集会、2007. 9, 栃木
14. 下山直人: パネルディスカッション (1) 緩和医療と麻酔科「緩和医療卒後研修における麻酔科の役割」: 日本臨床麻酔学会第 27 回大会、2007. 10, 東京
15. 下山直人: シンポジウム『疼痛治療による「前向き」医療の科学的根拠』「がん性疼痛の緩和による延命効果について」: 第 1 回日本緩和医療薬学会年会、2007. 10, 東京
16. 下山直人: 教育セッション 15「がん治療 update: 緩和医療」: 第 45 回日本癌治療学会総会、2007. 10, 京都
17. 下山直人: シンポジウム『がん性疼痛 TDDS (フェンタニルパッチ) の臨床的意義』: TDDS 世界シンポジウム、2007. 12, 東京



18. 森田達也: 臨床と研究における腫瘍学と緩和医学の共同作業. 第4回日本臨床腫瘍学会総会. 2007. 3, 大阪
19. 清原恵美、森田達也、他: STASを用いた苦痛のスクリーニングシステムについて: pilot study. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
20. 佐々木直子、森田達也、他: 化学療法施行患者の患者自記式緩和ケアニーズスクリーニングシステム. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
21. 松尾直樹、森田達也、他: ホスピス・緩和ケア病棟におけるメチルフェニデート(リタリン)使用の実態: 全国医師対象質問紙調査. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
22. 八代英子、森田達也、他: 神経因性疼痛にギャバペンチンが有効であった8症例. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
23. 鄭陽、下山直人、森田達也、他: 日本の緩和ケア専門施設における神経ブロックの治療効果: 多施設調査. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
24. 山田理恵、森田達也、他: 難治性消化器症状に対し薬物療法が奏効した4例. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
25. 難波美貴、森田達也、他: 立ち上げ5年目の緩和ケアチーム専従看護師の実践内容の分析と役割の検討. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
26. 赤澤輝和、森田達也、明智龍男、他: 終末期がん患者における精神的苦悩の予測因子に関する検討. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
27. 安藤満代、森田達也、他: 1週間の短期回想療法は終末期がん患者のSpiritual well-beingを向上させるかもしれない. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
28. 岩崎静乃、森田達也、他: ホスピス病棟入院患者の口腔内状況と歯科介入の必要性. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
29. 池永昌之、森田達也、内富庸介: 症状緩和のための鎮静(Palliative Sedation Therapy)の効果と安全性、倫理的妥当性の検討: 緩和ケア専門病棟における多施設前向き観察的研究. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
30. 小原弘之、森田達也、他: がん患者の呼吸困難に対するフロセミド吸入療法の効果の検討. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
31. 宮下光令、森田達也、他: 診療記録から抽出する緩和ケアの質の指標(Quality Indicator)の同定: デルファイ変法による検討. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
32. 森田達也: 終末期医療・緩和ケアにおける薬物療法の倫理—とくに鎮静について. 第20回日本サイコロジ学会総会. 第20回日本総合病院精神医学会総会. 2007. 11, 札幌
33. 田伏英晶、明智龍男、他: 新しいHamiltonうつ病評価尺度 GRID-HAMD の inter-rater reliability の検討. 第165回東海精神神経学会. 2007. 2, 名古屋
34. 奥山徹、明智龍男、他: がん患者における、精神的負担について主治医と話し合うことへの抵抗感. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
35. 奥山徹、明智龍男、他: がん患者は、精神的負担について主治医と話し合うことをどのように感じているか? : 抵抗感とその関連因子に関する研究. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
36. 佐川竜一、明智龍男、他: がん患者におけるせん妄の発現因子に関する検討: 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
37. 岡村優子、明智龍男、内富庸介、他: 進行がん患者の大うつ病に対する薬物治療アルゴリズムの臨床的検討. 第20回日本サイコロジ学会総会. 2007. 11, 札幌
38. 佐川竜一、明智龍男、他: がん患者におけるせん妄の発現要因と臨床的サブタイプに関する検討. 第20回日本サイコロジ学会総会. 2007. 11, 札幌
39. 藤森麻衣子、明智龍男、内富庸介、他: 患者が望む悪い知らせのコミュニケーション その1 日米がんセンター比較. 第20回日本サイコロジ学会総会. 2007. 11, 札幌
40. 藤森麻衣子、明智龍男、森田達也、内富庸介、他: 患者が望む悪い知らせのコミュニケーション その2 国立がんセン

- ター東病院外来調査, 第20回日本サイコオンコロジー学会総会, 2007. 11, 札幌
41. 清水研、明智龍男、内富庸介、他：終末期がん患者に合併した大うつ病は精神科医による介入により改善可能か？ 第20回日本総合病院精神医学会総会, 2007. 11, 札幌
  42. 赤澤輝和、明智龍男、内富庸介：がん患者・家族の心理社会的問題に対する電話相談の実施可能性, 第20回日本総合病院精神医学会総会 2007. 11, 札幌
  43. 小川朝生：がん医療において精神科医に期待されること-がん対策基本法をうけて：県拠点病院精神科医の立場から. 第20回日本サイコオンコロジー学会総会 第20回日本総合病院精神医学会総会合同大会. 2007. 11, 札幌
  44. 小川朝生、他：大阪医療センター緩和ケアチーム「がんサポートチーム」の活動. 第5回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2007. 3, 札幌
  45. 田中登美、小川朝生：当院緩和ケアチーム「がんサポートチーム」におけるがん看護専門看護師の活動と今後の課題. 第5回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2007. 3, 札幌
  46. 田中登美、小川朝生：急性期一般病院の緩和ケアチームにおける看護師の役割. 第18回日本在宅医療研究会学術集会. 2007. 9, 東京
  47. 小川朝生、他：緩和ケアチーム介入症例の介護者負担感とQOL. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
  48. 小川朝生、他：大阪医療センター緩和ケアチーム「がんサポートチーム」の活動. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
  49. 松山和代、小川朝生、他：がん性神経傷害性疼痛に対するガバペンチンの使用経験. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
  50. 戸高絹代、小川朝生、他：STAS-Jを用いた急性期病院緩和ケアチームの介入評価と今後の課題. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
  51. 尾池真理、小川朝生、他：地域連携を指向した緩和ケアチームの活動と課題. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
  52. 田中登美、小川朝生、他：急性期一般病院における緩和ケアチーム「がんサポートチーム」におけるがん看護専門看護師の活動と課題. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007. 6, 岡山
  53. 内富庸介：コミュニケーションスキル. 松江市立病院研修会. 2008. 島根
  54. 内富庸介：がん医療におけるコミュニケーション技術. がん医療におけるコミュニケーション技術研修. 2008. 島根.
  55. 内富庸介：サイコオンコロジー. がんプロフェッショナル養成プラン大学院腫瘍専門医コース. 2008. 東京.
  56. 内富庸介：サイコオンコロジー：人の心の機能から国の取り組みまで. 第21回日本総合病院精神医学会総会. 2008. 千葉
  57. 内富庸介：がん医療におけるコミュニケーションスキル. 日本プライマリ・ケア学会第22回近畿地方会. 2008. 大阪
  58. 内富庸介：コミュニケーションスキル：がんをどう伝えるか？. 第46回日本癌治療学会イブニングセミナー4. 2008. 愛知
  59. 内富庸介：がん医療におけるコミュニケーション技術. 第46回日本癌治療学会総会. 2008. 愛知
  60. 内富庸介、がん医療これからどうなる、心の支援対策の第一歩. 日本経済新聞出版社. 2008. 東京
  61. 内富庸介：1. 精神腫瘍学の定義、発展の背景について 2. がん患者の心理の正常な反応と正常を逸脱した症状について. がん看護学・緩和ケア特論Ⅲ 精神腫瘍学. 2008. 千葉
  62. 内富庸介：がん患者との対話. 第100回メンタルケア・スペシャリスト養成講座. 2008. 東京.
  63. 内富庸介：がん医療における心のケア対策. 第3次対がん10か年総合戦略 第2回合同シンポジウム. 2008. 東京.
  64. 内富庸介：サイコオンコロジー：がん医療における心の医学. 第27回日本社会精神医学会. 2008. 福岡.
  65. 浅井真理子、内富庸介：がん医療に関わる医師のバーンアウト - 国内外の実態 -. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008. 静岡.
  66. 下山直人：「癌領域に関する緩和治療」：第7回千葉県がん専門薬剤師セミナー、2008.1、千葉

67. 下山直人：「がん緩和医療の最前線について」：平成 19 年度文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」これからのがん医療のあり方を考える市民公開講座、2008. 1、札幌
68. 下山直人：シンポジウム『がん性疼痛患者の心をさぐる』「がん性疼痛患者へのチームによる全人的緩和医療」：第 37 回日本慢性疼痛学会、2008. 2、栃木
69. 下山直人：「緩和医療の現状と今後の展望」：千葉がん疼痛治療フォーラム、2008. 3、千葉
70. 下山直人：「がんの緩和療法のノウハウ」：第 96 回日本泌尿器科学会総会「指導医教育企画」、2008. 4、横浜
71. 下山直人：「頭頸部がん患者の緩和ケア」：第 32 回日本頭頸部癌学会教育講演 2、2008. 6、東京
72. 下山直人：「難治性疼痛の治療」：第 55 回日本麻酔科学会教育講演 11、2008. 6、横浜
73. 下山直人：「がんの痛みは我慢しないでいい」：第三回 三重市民公開講座、2008. 6、三重
74. 下山直人：「基幹病院と地域医療の連携についての取り組みーがん難民を作らないために」：第 16 回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 千葉、2008. 7、千葉
75. 下山直人：「がんの痛みは怖くないーがんの痛みのメカニズムと治療ー」：名古屋大学環境医学研究所市民公開講座、2008. 10、名古屋
76. 下山直人：「痛みごとの鎮痛」：第 37 回精神研シンポジウム、2008. 10、東京
77. 下山直人：シンポジウム 4『骨転移による疼痛管理の基礎と応用』「骨転移」：第 2 回日本緩和医療薬学会年会、2008. 10、横浜
78. 志真泰夫, 森田達也：シンポジウム 6 終末期医療における臨床倫理：こんな時どう考える？ 第 13 回日本緩和医療学会総会。2008. 7、静岡
79. 岡村仁, 森田達也, 他：ランチョンセミナー 8 エビデンスに基づいた終末期せん妄の家族へのケア。第 13 回日本緩和医療学会総会。2008. 7、静岡
80. 佐藤一樹, 森田達也, 内富庸介, 他：がん診療連携拠点病院 1 施設の一般病棟と緩和ケア病棟での死亡前 48 時間以内に実施された医療の実態調査。第 13 回日本緩和医療学会総会。2008. 7、静岡
81. 佐藤一樹, 森田達也, 内富庸介, 他：診療記録から抽出する終末期がん医療の質指標による一般病棟での終末期がん医療の質の評価。第 13 回日本緩和医療学会総会。2008. 7、静岡
82. 深堀浩樹, 森田達也, 他：高齢者施設におけるがん患者への緩和ケアの実態 OPTIM study。第 13 回日本緩和医療学会総会。2008. 7、静岡
83. 平井啓, 森田達也, 他：地域住民の緩和ケアの利用に対する準備性と各種メディアに対する信頼性 OPTIM study。第 13 回日本緩和医療学会総会。2008. 7、静岡
84. 宮下光令, 森田達也, 他：一般市民のがん医療に対する安心感および医療用麻薬・緩和ケア病棟に対する認識 OPTIM study。第 13 回日本緩和医療学会総会。2008. 7、静岡
85. 宮下光令, 森田達也, 他：地域の医師・看護師の緩和医療の提供に関する地震及び困難感 OPTIM study。第 13 回日本緩和医療学会総会。2008. 7、静岡
86. 杉浦宗敏, 森田達也, 他：がん診療連携拠点病院の緩和ケア提供機能に関する薬剤業務の実態調査（1）。第 13 回日本緩和医療学会総会。2008. 7、静岡
87. 佐野元彦, 森田達也, 他：がん診療連携拠点病院の緩和ケア提供機能に関する薬剤業務の実態調査（2）。第 13 回日本緩和医療学会総会。2008. 7、静岡
88. 吉田沙蘭, 森田達也, 他：一般市民がもつ緩和ケアの整備に対する認識 OPTIM study。第 13 回日本緩和医療学会総会。2008. 7、静岡
89. 山岸暁美, 森田達也, 他：一般市民および地域在住がん患者の療養死亡場所の希望：OPTIM study。第 13 回日本緩和医療学会総会。2008. 7、静岡
90. 新城拓也, 森田達也, 他：遺族調査から見る臨終前後の家族の経験と望ましいケア：J-HOPE study。第 13 回日本緩和医療学会総会。2008. 7、静岡
91. 天野功二, 森田達也, 他：聖隷ホスピスにおける造血器悪性腫瘍患者に対する緩和医療。第 13 回日本緩和医療学会総会。2008. 7、静岡
92. 宮下光令, 森田達也, 他：J-HOPE study (The Japan Hospice and Palliative care Evaluation study)：研究デザインおよび

- 参加施設の概要. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008. 7, 静岡
93. 山岸暁美, 森田達也, 他: がん患者における在宅療養継続の阻害要因および在宅診療提供体制 OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008. 7, 静岡
  94. 古村和恵, 森田達也, 他: がん患者と医療者の情報共有ツール「わたしのカルテ」の必要性に関する質問紙調査: OPTIM STUDY. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008. 7, 静岡
  95. 赤澤輝和, 森田達也, 他: がん医療における相談記録シートの作成と実施可能性の検討: OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008. 7, 静岡
  96. 大木純子, 森田達也, 他: がん患者に今求められる支援・サポートとは～地域医療者のブレインストーミングの結果から～: OPTIM STUDY. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008. 7, 静岡
  97. 前堀直美, 森田達也, 他: 浜松市保険薬局薬剤師に対してのがん緩和医療に関するアンケート調査. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008. 7, 静岡
  98. 藤本亘史, 森田達也, 他: 遺族調査の結果からみた緩和ケアチームの介入時期と有用性: J-HOPE study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008. 7, 静岡
  99. 内富庸介: がん患者の心理的反応に配慮したがん診療. 第97回日本泌尿器科学会総会. 講演. 2009. 4, 岡山県
  100. 内富庸介: 緩和ケアで求められる心理士の役割. 日本心理臨床学会第28回大会. ワークショップ. 2009. 5, 東京都
  101. 内富庸介: がん医療における心療内科の役割. 第1回日本心身医学5学会合同集会. シンポジウム座長. 2009. 6, 東京都
  102. 内富庸介: がん患者の心理的反応に配慮したコミュニケーション. 第48回日本消化器がん検診学会総会. 講演. 2009. 6, 北海道
  103. 内富庸介: がん患者の心の反応とその変調への対応. 第9回臨床医のための心身医療東京フォーラム. シンポジウム座長. 2009. 7, 東京都
  104. 内富庸介: がん患者の心理的反応に配慮したコミュニケーション. 第42回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会. 教育研修講演. 2009. 7, 神奈川県
  105. 内富庸介, 白井由紀: コミュニケーション技術研修. 第22回日本サイコオンコロジー学会総会. 座長. 2009. 10, 広島県
  106. 白井由紀, 藤森麻衣子, 内富庸介, 他: 重要な面談にのぞむがん患者に対する質問促進パンフレットの開発. 第22回日本サイコオンコロジー学会総会. 示説. 2009. 10, 広島県
  107. 内富庸介: サイコオンコロジー: 概観、医学心理学. 第47回日本癌治療学会学術集会. 教育シンポジウム1: 司会. 2009. 10, 神奈川県
  108. 内富庸介: 緩和医療とサイコオンコロジー. 第68回日本癌学会学術総会. 一般演題 (ポスター). 2009. 10, 神奈川県
  109. 内富庸介: 緩和医療と精神腫瘍学. 第68回日本癌学会学術総会. 座長. 2009. 10, 神奈川県
  110. 伊藤達彦, 内富庸介, 他: 外来化学療法を施行するがん患者に対する適応障害・うつ病スクリーニングプログラム. 第22回日本総合病院精神医学会総会. 一般演題 (ポスター). 2009. 11, 大阪府
  111. 小川朝生, 内富庸介, 他: 外来がん患者に対する精神症状スクリーニングプログラム: 実施可能性と有用性の検討. 第22回日本総合病院精神医学会総会. 一般演題 (ポスター). 2009. 11, 大阪府
  112. 内富庸介: リエゾン精神医学における精神療法のエッセンス. 第22回日本総合病院精神医学会総会. 教育講演座長. 2009. 11, 大阪府
  113. 内富庸介: 緩和ケアと精神腫瘍学の目指すもの. 第22回日本総合病院精神医学会総会. シンポジウム座長. 2009. 11, 大阪府
  114. 内富庸介: 緩和ケアと精神腫瘍学の目指すもの. 第22回日本総合病院精神医学会総会. 演者. 2009. 11, 大阪府
  115. 明智龍男, 森田達也: 緩和医療の研究をいかに進めるか～実際に研究を進めるためのノウハウ～. 第14回日本緩和医療学会総会. シンポジウム8. 2009. 6, 大阪府
  116. 森田達也, 他: 緩和医療における口腔ケアの重要性. 第14回日本緩和医療学会総会. モーニングセミナー2. 2009. 6, 大阪府
  117. 森田達也, 他: 緩和ケア普及のための地

- 域介入プログラムの実施可能性と有効性：OPTIM 浜松. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 一般演題（口演 5）「地域連携」2009. 6, 大阪府
118. 笹原朋代, 森田達也, 他：病院内緩和ケアコンサルテーションチームの基準の開発. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
119. 安藤満代, 森田達也, 他：遺族のスピリチュアルケアとしてのビリーブメント・ライフレビュー. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
120. 宮下光令, 森田達也, 他：全国のがん診療連携拠点病院、緩和ケア病棟、在宅ホスピスのがん患者の遺族 8,163 人によるがん終末期ケアの質の評価：J-HOPE study. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
121. 前堀直美, 森田達也, 他：保険薬局の電話モニタリングと受診前薬局による症状緩和の評価：OPTIM 浜松. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
122. 佐藤一樹, 森田達也, 他：一般市民に対する緩和ケアに関する教育的介入の長期効果. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
123. 松尾直樹, 森田達也, 他：ホスピス・緩和ケア病棟におけるコルチコステロイド使用の実態：全国医師対象質問紙調査. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
124. 山岸暁美, 森田達也, 他：外来化学療法中のがん患者の症状頻度と経時的フォローアップ. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
125. 吉田沙蘭, 森田達也, 他：生命予後告知に対する遺族の評価とその関連要因：J-HOPE Study. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
126. 白土明美, 森田達也, 他：ホスピスにおける在宅支援ベッド運用についての検討. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
127. 坂口幸弘, 森田達也, 他：遺族ケアサービスに対する遺族のニーズとバリア：J-HOPE study. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
128. 鄭陽, 森田達也, 他：緩和ケア普及のための地域介入プログラムにおける緩和ケアセミナーの有用性：OPTIM 浜松. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
129. 清原恵美, 森田達也, 他：地域緩和ケアを促進するための看護師に対するホスピス研修の有用性：OPTIM 浜松. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
130. 藤本亘史, 森田達也, 他：地域医療者調査をもとに地域の課題を共有するための緩和ケア専門家によるフォーカスグループの試み：OPTIM 浜松. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
131. 井村千鶴, 森田達也, 他：地域緩和ケアチームによるアウトリーチの有用性：OPTIM 浜松. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
132. 赤澤輝和, 森田達也, 他：地域の緩和ケアサービスの情報共有方法はどのようにすればよいか？：OPTIM 浜松. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
133. 古村和恵, 森田達也, 他：がん患者の医療情報共有ツール「わたしのカルテ」の有用性に関する介入調査：OPTIM 浜松. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
134. 大木純子, 森田達也, 他：がん患者に求められる支援・サポートについての地域でのフォーカスグループ：OPTIM 浜松. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
135. 野末よし子, 森田達也, 他：浜松市におけるがん患者のケアマネジメントについての実態調査：OPTIM 浜松. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
136. 崔智恩, 森田達也, 他：在宅ホスピスを利用したがん患者の遺族の在宅療養と在宅死亡に対する意向とその関連要因に関する研究：J-HOPE study. 第 14 回日本緩和医療学会総会. 2009. 6, 大阪府
137. 森田達也, 他：緩和医療と精神腫瘍学—地域における緩和ケア：OPTIM プロジェクトから学んだこと—. 第 68 回日本癌学会学術総会. シンポジウム 21-2. 2009. 10, 神奈川県
138. 木澤義之, 森田達也, 他：緩和医療と精神腫瘍学—我が国における緩和ケアの教育の現状—. 第 68 回日本癌学会学術総会. シンポジウム 21-3. 2009. 10, 神奈川県
139. 森田達也：緩和医療による生活の質向上を求めて—基礎から臨床まで 根拠を踏まえた情報提供のありかたを探る—「緩

和医学を理解するために知っておきたい  
EBMの知識」, 第19回日本医療薬学会年  
会. シンポジウム17-5, 2009. 10, 長崎  
県

140. 森田達也: がん性疼痛マネジメントのコツ 突出痛の対応, フェンタニルの上手な使い方, 神経ブロック併用のタイミング. 日本臨床麻酔学会第29回大会. 教育セミナーL14. 2009. 10, 静岡県
141. 安藤満代, 森田達也, 明智龍男, 他: 治療中の日本人がん患者に対するマインドフルネスアプローチの心理面への効果. 第22回日本サイコオンコロジー学会総会: 2009.10, 広島県
142. 安藤満代, 森田達也, 明智龍男, 他: 治療中のがん患者に対するマインドフルネスアプローチが心理に及ぼす効果-質的分析. 第22回日本サイコオンコロジー学会総会: 2009.10, 広島県
143. 吉田愛子, 明智龍男, 他: バクロフェン髄腔内投与により精神症状を来した一例. 第22回日本総合病院精神医学会総会: 2009.11, 大阪府
144. 金井菜穂子, 明智龍男, 他: がん患者へのグループ問題解決療法に関する研究. 第22回日本サイコオンコロジー学会総会: 2009.10, 広島県
145. 小川朝生: いかに精神症状に対応するか, 第14回日本緩和医療学会学術大会: パネルディスカッション1, 2009.6, 大阪府
146. 小川朝生: 悪性腫瘍における薬物間相互作用, 第22回日本総合病院精神医学会総会: シンポジウム, 2009.11, 大阪府
147. 小川朝生: 悪い知らせの伝え方とその後の対応, 第47回日本癌治療学会学術集会: 教育シンポジウム1, 2009.10, 神奈川県
148. 大西秀樹: がん患者・家族・遺族の心のケア, 第22回神戸心身医学会, 2009.4, 兵庫県

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
特記すべきことなし。

## Ⅱ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍（日本語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
藤森麻衣子、 <u>内富庸介</u> 、他	がん診断、再発、終末期の心の反応を理解する	内富庸介 藤森麻衣子	がん医療におけるコミュニケーション・スキル 悪い知らせをどう伝えるか	医学書院	東京	2007	34-43
片山博文、 <u>下山直人</u>	緩和療法の実際	田村友秀	がん看護実践シリーズ3 肺がん	メヂカルフレンド社	東京	2007	146-154
大澤美佳、 <u>下山直人</u> 、他	ターミナル期にある患者の支援	藤原康弘	がん看護実践シリーズ8 乳がん	メヂカルフレンド社	東京	2007	197-212
<u>下山直人</u>	緩和医療におけるインフォームド・コンセント	五十子敬子	医をめぐる自己決定－倫理・看護・医療・法の視座－	イウス出版	東京	2007	147-161
下山恵美、 <u>下山直人</u>	緩和医療1. オピオイドの使い方は？	永井厚志、 吉澤靖之、 大田健、 江口研二	EBM 呼吸器疾患の治療	中外医学社	東京	2007	405-408
<u>下山直人</u>	医療用麻薬（オピオイド鎮痛薬）の種類と特徴	下山直人	インフォームドコンセントのための図説シリーズ がん性疼痛	医薬ジャーナル社	東京	2007	34-39
高橋秀徳、 <u>下山直人</u>	Ⅱ. 緩和ケアにおけるコンサルテーション活動の専門性 2. 緩和ケアチームで活躍する医師の役割と実際－1）緩和ケア担当医の立場から	（財）日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 「ホスピス緩和ケア白書」編集委員会	ホスピス緩和ケア白書2007	（財）日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団	東京	2007	24-27
<u>下山直人</u>	がん患者の苦痛に対する鍼灸の効果	日本統合医療学会、 渥美和彦	統合医療 基礎と臨床	株式会社ゾディアック	東京	2007	66-73
明智龍男	難しいケースの場合：「死にたい」への対応	内富庸介、 藤森麻衣子	がん医療におけるコミュニケーション・スキル 悪い知らせをどう伝えるか	医学書院	東京	2007	103-107
明智龍男	精神的ケア-おもな精神症状の診断と治療	恒藤暁、 内布敦子	系統看護学講座別巻10 緩和ケア	医学書院	東京	2007	189-211



明智龍男	がん患者の精神的問題	山口徹、 北原光夫、 福井次矢	今日の治療指 針2007年版	医学書院	東京	2007	714-715
森田達也	終末期がんの場合 1. 輸液.	内富庸介、 藤森麻衣子	がん医療にお けるコミュニ ケーション・ スキル 悪い 知らせをどう 伝えるか	医学書院	東京	2007	58-63
森田達也	終末期がんの場合 2. 鎮静.	内富庸介、 藤森麻衣子	がん医療にお けるコミュニ ケーション・ スキル 悪い 知らせをどう 伝えるか	医学書院	東京	2007	64-69
岡村 仁	更年期の精神ケアとホ ルモン補充療法	佐伯俊昭、 本庄英雄	乳癌リスクか らみたホルモ ン補充療法の 治療指針	金原出版	東京	2007	62-66
内富庸介	精神的サポート	今井浩三	看護のための 最新医学講座 [第2版] 第24 巻腫瘍の臨床	中山書店	東京	2008	295-307
内富庸介、他	サイコオンコロジーと チーム医療	上島国利、 樋口輝彦、 野村総一 郎、大野裕、 神庭重信、 尾崎紀夫	気分障害	医学書院	東京	2008	610-615
高橋秀徳、下 山直人	癌性疼痛と疼痛緩和	中川和彦	Cancer Treatment Navigator	株式会社 メディカ ルレビュー ー社	東京	2008	272-273
下山恵美、下 山直人、他	鎮痛補助薬	日本緩和医 療薬学会	臨床緩和医療 薬学（	真興交易 株式会社 医書出版 部	東京	2008	78-92
下山恵美、下 山直人	疼痛管理	神田善伸	造血幹細胞移 植の基礎と臨 床（上巻）	医薬ジャ ーナル社	東京	2008	299-302
大上俊彦、下 山直人、他	膵がんの疼痛マネジメ ント	奥坂拓志	膵がん標準化 学療法の実際	金原出版	東京	2008	59-61
高橋秀徳、下 山直人、他	国立がんセンター中央 病院	後明邦男	緩和ケアチ ームの立ち上 げとマネジメ ント	南山堂	東京	2008	130-133
下山直人、他	疼痛のメカニズム	東原正明	癌緩和ケア	振興医学 出版社	東京	2008	6-9

森田達也, (編), 他		森田達也, 木澤義之, 戸谷美紀	緩和ケアチ ームの立ち上 げ方・進め方	青海社	東京	2008	
社団法人日 本医師会 (監), 森田 達也(編), 他		社団法人日 本医師会 (監)	がん性疼痛治 療のエッセ ンス	青海社	東京	2008	
社団法人日 本医師会 (監), 森田 達也(編), 他		社団法人日 本医師会 (監)	がん緩和ケア ガイドブック 2008年版	青海社	東京	2008	
森田達也	緩和医療(終末期医療、 在宅ケア)	中川和彦 (編集), 勝 俣範之, 西 尾和人, 畠 清彦, 朴成 和(共同編 集)	NAVIGATOR Cancer Treatment Navigator	メディカ ルレビュ ー社	東京	2008	278-279
明智 龍男	在宅緩和ケアに必要な 技術と知識:サイコ ンコロジー	片山壽監修	地域で支える 患者本位の在 宅緩和ケア	篠原出版 新社	東京	2008	202-210
明智 龍男	抑うつ、不安の評価	緩和ケア編 集委員会編 集	臨床と研究に 役立つ緩和ケ アのアッセ メントツール 緩和ケア10月 増刊号	青海社	東京	2008	36-39
大西秀樹	がん患者の心を救う	大西秀樹	がん患者の心 を救う	河出書房 新社	東京	2008	
大西秀樹	女性のがん 心のケア	大西秀樹	女性のがん 心のケア	土屋書店	東京	2008	
藤森麻衣子, 小川朝生, 内 富庸介	サイコオンコロジー	佐藤隆美、 藤原康弘、 古瀬純司、 大山優	がん治療エッ センシャルガ イド	南山堂	東京	2009	105-111
藤森麻衣子, 小川朝生, 内 富庸介	サイコオンコロジー	北原規、相 羽恵介	化学放射線療 法プラクティ カルガイド	南山堂	東京	2009	99-110
内富庸介	リエゾン精神医学とそ の治療学	山脇成人	新世紀の精神 科治療	中山書店	東京	2009	
内富庸介	緩和ケア	岡崎祐士、 神庭重信、 小山司、武 田雅俊	精神科専門医 のためのプラ クティカル精 神医学	中山書店	東京	2009	588-594
小川朝生、内 富庸介, 他	緩和ケアチームのため の精神腫瘍学入門	小川朝生、 内富庸介	緩和ケアチ ームのための精 神腫瘍学入門	医薬ジャ ーナル社	東京	2009	

小川朝生, 内富庸介	精神腫瘍学クイックリファレンス	小川朝生, 内富庸介	精神腫瘍学クイックリファレンス	創造出版	東京	2009	
内富庸介, 藤森麻衣子	続・がん医療におけるコミュニケーション・スキル	内富庸介, 藤森麻衣子	実践に学ぶ悪い知らせの伝え方	医学書院	東京	2009	
森田達也	第3部がん化学療法中に施行する栄養管理. 5. 終末期がん患者に対する輸液治療	大村健二	がん患者の栄養管理 がん化学療法チームハンドブック	南山堂	東京	2009	262-271
天野功二, 森田達也	第Ⅱ章消化器癌化学療法の実際. 消化器癌化学療法施行時の栄養管理と消化器癌患者に対する緩和医療. 消化器癌患者に対する緩和医療	久保田哲朗, 大村健二	消化器癌化学療法 改訂2版	南山堂	東京	2009	359-374
明智 龍男	自殺・希死念慮	日本サイコオンコロジー学会教育委員会	緩和ケアチームのための精神腫瘍学入門	医薬ジャーナル社	大阪	2009	278-296
明智 龍男	認知症 事例	日本サイコオンコロジー学会教育委員会	緩和ケアチームのための精神腫瘍学入門	医薬ジャーナル社	大阪	2009	211-217
明智 龍男	身体疾患に伴ううつ	杉山直也他	プライマリ・ケア医による自殺予防と危機管理	南山堂	東京	2009	56-59
明智 龍男	サイコオンコロジー (精神腫瘍学) update	西條長宏他	がん化学療法・分子標的治療update	中外医学社	東京	2009	564-568
明智 龍男	ディグニティセラピー	精神科治療学編集委員会	精神療法・心理社会療法ガイドライン	星和書店	東京	2009	279-281
明智 龍男	がんの心理社会的側面-サイコオンコロジー	日本臨床腫瘍学会	新臨床腫瘍学-がん薬物療法専門医のために	南江堂	東京	2009	853-858
明智 龍男	精神療法	小川朝生他	精神腫瘍学クイックリファレンス	創造出版	東京	2009	163-180
明智 龍男	うつ病	小川朝生他	精神腫瘍学クイックリファレンス	創造出版	東京	2009	117-129
明智 龍男	がん患者の自殺・希死念慮	小川朝生他	精神腫瘍学クイックリファレンス	創造出版	東京	2009	75-87

岡村 仁	家族（夫・子ども）とどう向き合えばよいのでしょうか。	日本乳癌学会	患者さんのための乳がん診療ガイドライン	金原出版株式会社	東京	2009	150-151
岡村 仁	抗がん剤やホルモン剤によってうつになることはありますか。	日本乳癌学会	患者さんのための乳がん診療ガイドライン	金原出版株式会社	東京	2009	158-159
岡村 仁	IV. 心理・社会的問題へのアプローチ. 4. 医療スタッフのメンタルヘルス. 緩和ケアチームのための精神腫瘍学入門	小川朝生, 内富庸介	緩和ケアチームのための精神腫瘍学入門	医薬ジャーナル社	東京	2009	369-374
岡村 仁	V. 日常臨床での実践. 2. リソース. 緩和ケアチームのための精神腫瘍学入門	小川朝生, 内富庸介	緩和ケアチームのための精神腫瘍学入門	医薬ジャーナル社	東京	2009	406-409
小川朝生	緩和医療におけるうつ病	上島国利	新しい診断と治療のABC 気分障害	最新医学社	東京	2009	265-273
大西秀樹	がん患者の精神的問題	山口徹、北原光夫、福井次矢	今日の治療指針	医学書院	東京	2009	752
大西秀樹	緩和医療	樋野興夫、齊藤光江、唐沢久美子	講義録腫瘍学	メジカルレビュー社	東京	2009	78-81
大西秀樹	精神腫瘍学	山内俊雄	プラクティカル精神医学	中山書店	東京	2009	595-599

雑誌（外国語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Inagaki M, <u>Akechi T</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Smaller regional volumes of brain gray and white matter demonstrated in breast cancer survivors exposed to adjuvant chemotherapy.	Cancer	109	146-156	2007
Shimizu K, <u>Akechi T</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Can psychiatric intervention improve major depression in very near end-of-life cancer patients?	Palliat Support Care	5	3-9	2007
Miyashita M, <u>Morita T</u> , <u>Shimoyama N</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Barriers to providing palliative care and priorities for future actions to advance palliative care in Japan: a nationwide expert opinion survey.	J Palliat Med	10	390-399	2007
Inagaki M, <u>Akechi T</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Regional cerebral glucose metabolism in patients with secondary depressive episodes after fatal pancreatic cancer diagnosis.	J Affect Disord	99	231-236	2007